

■山中新十郎(信広)
やまなかしんじゅうろう
水野忠成老中1818＝

豪商。幕末に秋田藩の殖産振興を建言実行して著しい業績を挙げ、維新にも対応した稀にみる商傑。

出羽国秋田藩領平鹿郡増田村で、農業と質屋を営むかたわら葉たばこ・生糸の仕入れもする裕福な在方商人(播磨屋)山中長五郎の四男に生まれる。母は六郷村の豪農の娘。

日本外史・・・1827＝9歳：

__少年時代から家業を手伝うことによって商才を養い、

__藩財政が深刻な状態にあるのを知ると、その原因が藩役人の無為無策によると考え、

滑稽+人情本 1835＝17歳：__久保田城下に出、藩校(明徳館)に“殖産興業策”を提出しようとするも無視され、再挙を期して帰郷、
・・・1836＝18歳：
大塩平八郎乱1837＝19歳：

__前渡金商法を取り入れて、大きな利益を上げ、

勲進帳初演・1840＝22歳：__その資金を懐に、再び、“殖産興業策”を携えて久保田城下に出、出会った秋田藩士小野崎通敏に語って感心され、その勧めで藩校(明徳館)に殖産興業策を建白するも、結局不採用になると、まずは実践からと、
天保改革始・1841＝23歳：__城下久保田大町三丁目に呉服太物商として自立、山中屋新十郎と称する。

__その卓識と努力とによってたちまちにして頭角を現わし、

阿部正弘首座1845＝27歳：

__“山新”の名は藩外にも広く知れ渡って大商人となり、

・・・1848＝30歳：結婚。

万次郎帰国・1852＝34歳：__秋田藩の兵具方用達・郡方用達・町処用達となり、郡方織物用達として、秋田郡阿仁小沢田村・横淵村などの絹織座の事業にもかかわることとなる。この間も再々殖産興業策を藩に呈していたが、

ペリー来航・1853＝35歳：

開国開港・・・1854＝36歳：

安政大地震・1855＝37歳：

__陸路移入の害を説いてその禁止を建言し、
__藩をして絹・木綿などの陸路移入禁止を実現させると、さらに船手木綿の移入制限策などをとらしめるとともに、“藩事業絹木綿織座開設”を建言し、

五ヶ国条約・1858＝40歳：

安政の大獄・1859＝41歳：

桜田門外変・1860＝42歳：

遣欧使節・・・1861＝43歳：

__その実現とともに絹木綿織り出しの特権を得て、藩営織物工場の支配に乗り出すと、生産は順調に伸び、
__城下打綿屋・糸ひきなどの下請けと、染めを主体とする本店工場、さらに城下9ヵ所の織場などからなるマニュファクチュア形態の山新絹木綿生産にまで発展させ、藩内だけでなく、近隣諸藩にも移出される。

8月18日政変 1863＝45歳：

薩長同盟・・・1866＝48歳：__ついに一代にして苗字帯刀を許される。

明治維新・・・1868＝50歳：__〈戊辰戦争〉では、新政府側についた秋田藩や新政府軍の大小荷駄方支配人として兵根・弾薬などの調達・運搬にもあたり、奥州列藩同盟の敗北を尻目に、藩の維新乗り切りに最大の貢献をする。

__維新後も事業拡大を図るが、海路を汽船会社に独占されたことに剛を煮やし、“平和街道開通策”を建言、

学問のすすめ1872＝54歳：

明治6年政変 1873＝55歳：

西南戦争・・・1877＝59歳：__国策に従い、秋田県での国立銀行設立を大蔵省に出願、株主募集を始めた直後、腹痛を起して急死した。

「人づくり風土記(秋田)」、